

令和5年3月

春が待ち遠しい3月となりました。季節の変わり目であるとともに年度末、学年末でもあります。今年もこの時期恒例の多くの行事が実施され、私も参加することができました。補習校では幼稚部、小学部、中学部から合計69名の児童、生徒が卒園、卒業しました。日系文化会館(JCCC)では春祭りが行われ、多くの活動の発表が行われました。ジャパン・ボウルも楽しく実施。日本語弁論大会はオンタリオ州の大会が実施されるとともに、全国大会が今年はトロントで実施されました。



JCCC春祭り



ジャパン・ボウル



カナダ全国日本語弁論
大会



補習校卒業式

1、電池サプライチェーン協議会(BASC)のトロント訪問

1月に岸田総理がオタワを訪問された際、EVのバッテリーを製造する日本のビジネスミッションがカナダを訪問することが公表されました。3月、16の民間企業などから50名を越える方々がトロント及びモントリオールを訪問しました。トロントでのセミナーでは、カナダ連邦政府及びオンタリオ州政府の関係者との間で熱心な議論が行われました。オンタリオ州には、すでに米国や欧州また韓国の関連企業のバッテリー関連の投資が発表されています。カナダの自動車部品製造業協会(APMA)はオンタリオ州で製造された「アロー」という電気自動車をトロントのモーターショーでデモ展示しました。アローとは、かつてカナダが製造した航空機の名前です。豊かな鉱物資源と高度な技術を持った製造業が既にオンタリオ州には存在しています。そこに新たな資本と技術を持ち込めば、将来的にはかなり有望な製造拠点となるのではないのでしょうか。



BASCのセミナー



BASCとの夕食会

2、八王子東高校のトロント訪問(トロント・リサーチ・プログラム)

コロナ禍は様々な有人の交流を停滞させました。高校生の外国訪問も多くが影響を受けたと思います。今年に入り、コロナ以前から準備されていた交流が再開されています。八王子東高校のトロント訪問もその一つで、3年越しの計画が3月に実現しました。生徒の皆様、引率の先生方にお目にかかることができました。

私も、これまでオンラインで過去3回にわたりトロントやカナダについて講演を行いました。八王子東高校の皆さんは、それぞれに課題をもって、独自の研究を行われま

した。東京に比べればまだ気温の低いトロントですが、有意義な訪問となったことと思います。



八王子東高校の皆さんと

3、ウィンザー市訪問

ウィンザーは、オンタリオ州最南端の町でデトロイトの対岸にあります。ウイスキーのカナディアンクラブ揺籃の地。またフォードが初めて米国の外に工場を立てたのはウィンザーでした。

ウィンザーは、神奈川県藤沢市と姉妹都市関係にあります。藤沢市が友好の印として、市内のジャクソンパークに植樹した桜を訪問しました。ジャクソンパークには藤沢苑という公園もあります。日本に8年間在住経験のあるマリグナーニ市議会議員が案内してくださいました。しっかりとウィンザー市が管理されており、今年もまもなく美しい花を咲かせるでしょう。

ウィンザー市の最近の話題はスティランティス・LGエナジーによる車載バッテリー工場の投資発表です。市が提供した工業団地に建設が進められていました。表敬したディケンズ・ウィンザー市長は市の歴史と将来の発展を熱く語ってくださいました。バッテリー工場は関連投資も含めて将来的には十万人近い雇用創出が期待されるそうです。ウィンザーはカナダ製造業発祥の地でもあります。今後の成長を感じさせてくれる訪問でした。



藤沢園の桜



スティランティス工場建設現場



ディケンズ・ウィンザー市長表敬

4、佐藤航太カナダ国立バレエ団、セカンドソリスト

好きなバレエを学校に通いながら、カナダで極めてみたい。佐藤さんがそう思い立ってトロントの地を踏み、15歳の時には既にカナダ国立バレエ学校の寄宿舎で過ごし、バレエをもう一度基礎から学ばれました。今や、カナダ国立バレエ団のセカンドソリス

トとして、ときにはプリンシパルとして舞台上で活躍されています。2月の天皇誕生日祝賀レセプションには練習後に駆けつけてくださり、また後日ゆっくりとお話を伺う機会を得ました。立ち居振る舞いや会話の中にもバレエに対する情熱、日本に対する熱い思いが感じられました。カナダ国立バレエ団には、佐藤さんを始め、日本のソリストが5名おられます。また、今もカナダ国立バレエ学校の寄宿舎に住みながら、バレエの練習を続ける若手の日本人の方が数名おられるとのことでした。

カナダのバレエは世界の中でもトップレベルにあると伺いました。芸術の分野では、小澤征爾さんが海外で初めて指揮を取られたのは、トロントのオーケストラでした。トロントで活躍される日本人の方を1人でも多く紹介していきたいと思っております。



カナダ国立バレエ団の佐藤航太様と

5、日系企業訪問:クボタ・マテリアルズ・カナダ社、Erie AP 社

(1)Erie AP 社

建材は今ではかなり高度化し、意匠性、眺望性やエネルギー効率を重視した、カスタム・メイドの製品が求められる時代です。ウィンザー市を訪問した際、そのような製品を製造する、Erie AP 社を訪問しました。元々はウィンザー市近郊で創業した家族経営の会社であった Erie AP 社を 2019 年末に YKK AP グループ（注1）が傘下に収めました。カナダで設計・製造した建築外装材（ユニットカーテンウォール(注2))を米国市場に供給しており、空港や都市のランドマーク的な建物で多く採用されていま

す。米国市場に近い利点を活用し、日本企業の資本と現地の技術を活用した日系企業の活動例であると思いました。

(注1) YKK は吉田(創業者)工業株式会社の略。AP は Architectural Products の略。

(注2) ユニットカーテンウォール: 工場であらかじめアルミ枠にガラスを組み込みユニット化した建築外装材(カーテンウォール)。品質の確保と現場の安全性向上、工期短縮、及び省力化などを実現。



Erie AP 社訪問

(2)クボタ・マテリアルズ・カナダ社

令和4年10月の報告で、クボタのピカリング新拠点開所式の様子を報告いたしましたが、今月、クボタの創業の鋳物事業の技術を踏襲されている、クボタ・マテリアルズ・カナダ(KMC)社(オンタリオ州オリリア)を訪問しました。製品の中核は鋳鋼事業。中でもエチレン精製用熱分解炉の鋳物コイルなどを製作されています。皆さんが身近に使われている様々なプラスチック製品の原材料はこの装置から作られます。製品の特殊性からほぼすべての生産は受注生産、発注ごとにスペックを決定の上生産されるとのこと。このため約1年の納期がかかるそうです。また、自動車のブレーキに欠かせないブレーキパッド用原材料も生産。車のブレーキはこの製品がなければ成り立ちません。

もとはオンタリオ州の鉱山機械の鋳物を製作するカナダ企業を1990年に買収、現在まで発展させてこられました。日本の鋳物技術は奈良の大仏の時代にまでさかのぼります。KMCはオンタリオ州産出のニッケルなどの資源を原料に日本の技術を現

代に応用して我々の社会を支える製品を作製されています。カナダの資源と日本の技術の融合の一例で、現代に息づくオンタリオ州の物作りの伝統を感じた次第です。



KMC 社訪問